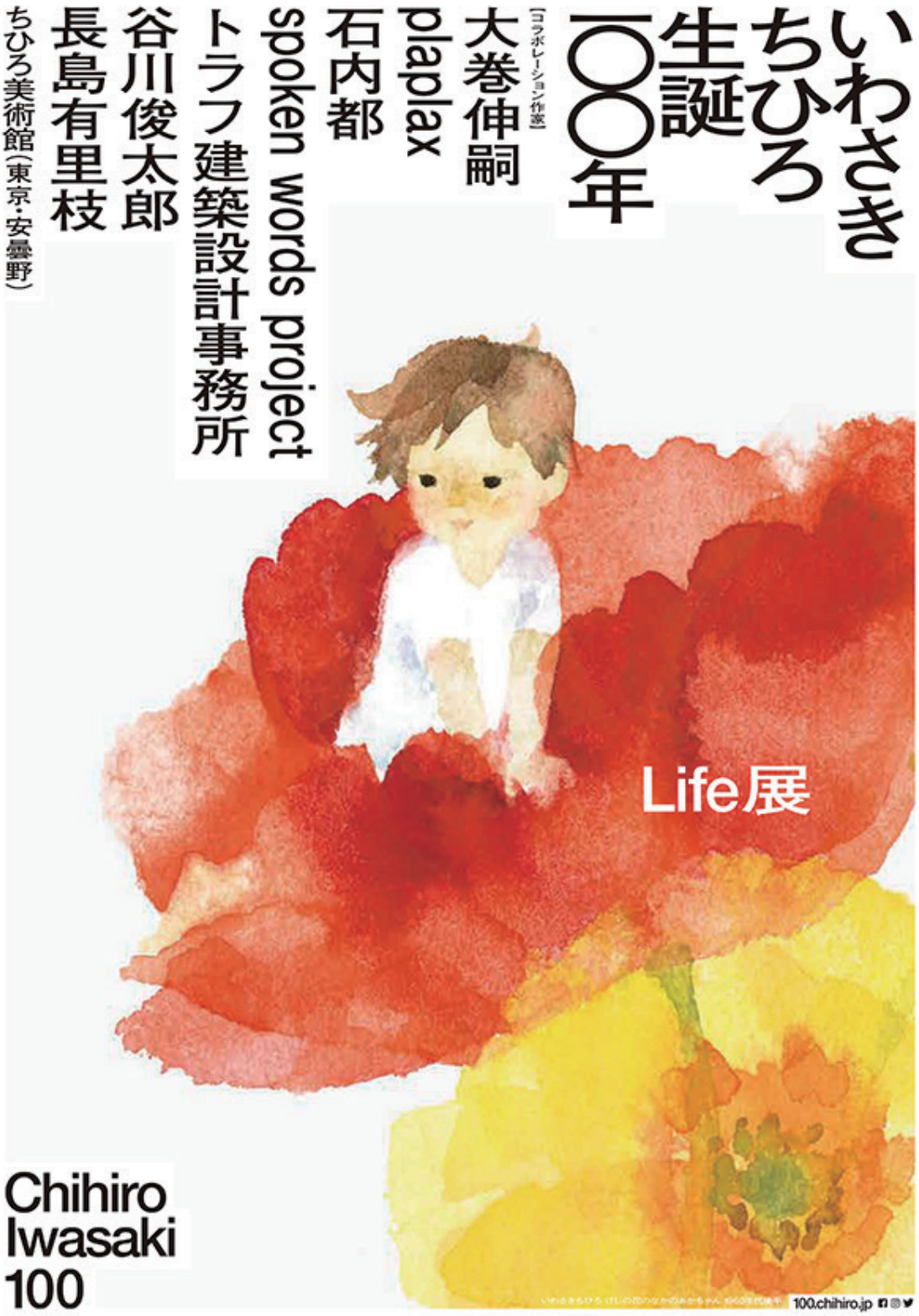


いわさきちひろ生誕 100 年「Life 展」

画家、いわさきちひろの生誕 100 年にあたる 2018 年。いわさきちひろと、さまざまな分野で活躍する 7 組の作家が「Life」をテーマにコラボレートする展覧会を [ちひろ美術館・東京]、[安曇野ちひろ美術館] の両館で順次開催。

第一弾展覧会

[ちひろ美術館・東京] 大巻伸嗣（アーティスト）「まなざしのゆくえ」会期：2018 年 3 月 1 日（木）～5 月 12 日（土）
[安曇野ちひろ美術館] plaplax（アートユニット）「あそぶ」会期：2018 年 3 月 1 日（木）～5 月 7 日（月）

配信元：デイリープレス　153-0042　東京都目黒区青葉台 3-5-33　川邉ハイツ 1F　tel. 03-6416-3201　info@dailypress.org

いわさきちひろ生誕 100 年「Life 展」

「Life」は、いのち、生命、生き物、人生、生涯、生活、暮らし、活気、生きがいなどの、広い意味を持つことばです。いわさきちひろが大切に思い、描いたものは、まさに「Life」でした。日本が戦争へと突き進むなかで娘時代を過ごしたいわさきちひろは、あたりまえのようにある生命や生活のはかなさを知っていました。だからこそ身近ないのちをいつくしみ、なによりかけがえのないものとして、みずみずしい色彩で包み込むように描き続けました。いわさきちひろの生誕 100 年にあたる 2018 年、いわさきちひろと、さまざまな分野で活躍する 7 組の作家が「Life」をテーマにコラボレートする展覧会を 2018 年 3 月 1 日より [ちひろ美術館・東京]、[安曇野ちひろ美術館] の両館で順次開催します。（各展覧会の開催スケジュールは下記をご参照下さい）

いわさきちひろ　Chihiro Iwasaki　1918 年〜 1974 年

福井県武生（越前市）に生まれ、東京で育つ。藤原行成流の書を学び、絵は岡田三郎助、中谷泰、丸木俊に師事。1950 年に紙芝居「お母さんの話」を出版、同年松本善明と結婚、翌年長男を出産。子どもの本を中心に画家として活躍し、働く女性として、母親として、戦後復興期の日本で自分の人生を切り開いた。生涯にわたって子どもや花を描き続け、現存する作品は 9500 点にのぼる。「世界中のこども みんなに 平和としあわせを」ということばに象徴される願いを、その絵は今も語り続けている。

【開催スケジュール】

ちひろ美術館・東京

2018 年 3 月 1 日（木）〜 5 月 12 日（土）
「まなざしのゆくえ」
大巻伸嗣（アーティスト）

2018 年 5 月 19 日（土）〜 7 月 22 日（日）
「着るをたのしむ」
spoken words project（ファッションブランド）

2018 年 7 月 28 日（土）〜 10 月 28 日（日）
「あそぶ」
plaplax（アートユニット）

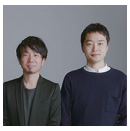
2018 年 11 月 3 日（土・祝）〜 2019 年 1 月 31（木）
「作家で、母で　つくる そだてる」
長島有里枝（アーティスト）

安曇野ちひろ美術館

2018 年 3 月 1 日（木）〜 5 月 7 日（月）
「あそぶ」
plaplax（アートユニット）

2018 年 5 月 12 日（土）〜 7 月 16 日（月・祝）
「ひろしま」
石内都（写真家）

2018 年 7 月 21 日（土）〜 9 月 25 日（火）
「子どものへや」
トラフ建築設計事務所（建築家）



2018 年 9 月 29 日（土）〜 12 月 16 日（日）
「みんないきてる」
谷川俊太郎（詩人）

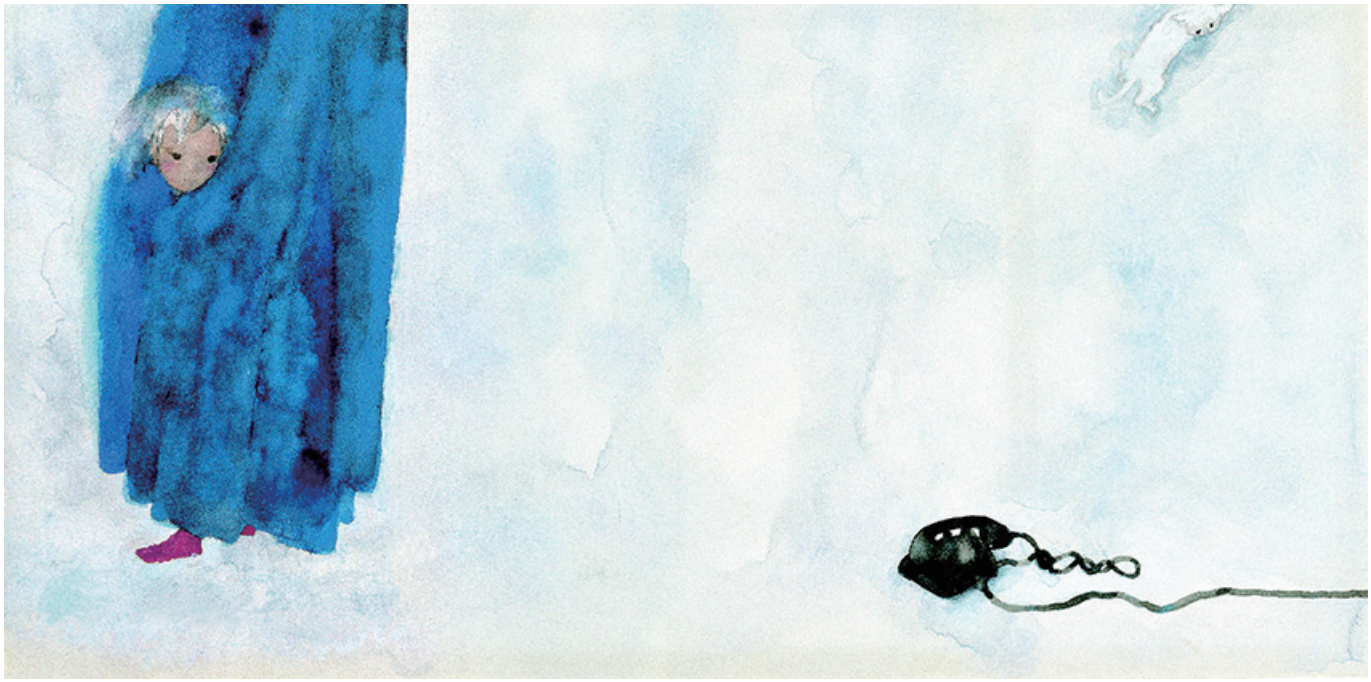
■プレスに関するお問い合わせ
本件に関するご取材、撮影、画像のお貸し出しなどのお問い合わせは、下記までご連絡下さいますようお願いいたします。
[安曇野ちひろ美術館] 入口あゆみ　e-mail. apublicity@chihiro.or.jp　tel.0261-62-0772　fax.0261-62-0774
[デイリープレス]　　山本真澄　e-mail. masumiyamamoto@dailypress.org　mob.090-4062-6361　tel.03-6416-3201

第１弾展覧会のご案内：2018 年３月１日（木）より開催

ちひろ美術館・東京

「まなざしのゆくえ」　大巻 伸嗣　Shinji Ohmaki（アーティスト）

会期：2018 年３月１日（木）～５月 12 日（土）



いわさきちひろ カーテンにかくれる少女『あめのひのおるすばん』（至光社）より 1968 年

―― まなざしの先にあるもの

その場に内在するイメージを鮮やかに掘り起し、繊細な感覚と壮大なスケールを併せ持つインスタレーションに取り組んできた大巻伸嗣が、ちひろ美術館・東京の空間全体をつかって、いわさきちひろの絵の世界を旅するような体験をうみだす展覧会。今までにない新たな視点から「生きる力」を喚起する。

作家からのメッセージ

ちひろさんは、水彩のにじみをいかして、紙に絵筆が乗った、その一瞬に、色彩やかたち、その場の空気や情感までもとらえています。それは、一瞬が永遠になるときともいえるでしょう。僕のインスタレーションを通じて、そういう瞬間を皆さんと共有できればと思います。絵本やカレンダーなどを通して、ちひろさんの絵はすでにさまざまなところで人々の記憶とつながっています。今を生きる僕たちのまなざしが、今回の展示を通して、時空を超え、重なったりズレたりする。そこに新たな面白さが生まれるでしょう。

profile

1971 年岐阜県生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。現在、東京藝術大学美術学部彫刻科教授。《Echo》、《Liminal Air》、《Memorial Rebirth》、《Flotage》など、さまざまな手法を用いた作品によって、「空間」「時間」「重力」「記憶」をキーワードに、“物質と空間・存在”をテーマとして制作活動を展開する。見ることのできないものを可視化し、体感させることで、新たな身体的、知覚的空間を作り出すことを試みる。軽やかかつ大胆に空間を非日常的な世界に変容させ、鑑賞者の身体的な感覚を呼び覚ますダイナミックなインスタレーション作品を制作する。近年の民家を使っての《家》シリーズ（いちはらアート×ミックス、越後妻有アートトリエンナーレ 2015、アートアクセスあだち 2016）では、積み重なった時間と記憶を、光を使って闇の空間の中に出現させるインスタレーションを展開。日本国内のみにとどまらず、世界中のギャラリー、美術館などで意欲的に作品を発表している。　http://www.shinjiohmaki.net/

■協力　株式会社エイプラフト、華陽堂、薗部秀徳、中矢清司　■助成　公益財団法人 花王 芸術・科学財団　■特別協賛 株式会社ジャクエツ
■後援　絵本学会、（公社）全国学校図書館協議会、（一社）日本国際児童図書評議会、日本児童図書出版協会、（公社）日本図書館協会、
杉並区教育委員会、西東京市教育委員会、練馬区

第１弾展覧会のご案内：2018 年３月１日（木）より開催

安曇野ちひろ美術館

「あそぶ」　plaplax [近森基＋久納鏡子＋筧康明＋小原藍]（アートユニット）

会期：2018 年 3 月 1 日（木）～ 5 月 7 日（月）
※ちひろ美術館・東京 では、2018 年 7 月 28 日（土）～ 10 月 28 日（日）に開催。

いわさきちひろ 楽器を鳴らす子どもたち 1957 年

――　見て、触れて、あそんで、ちひろを再発見

子どもはあそびながら、さまざまなことを体験し、体全体で世界を知覚していく。plaplax（プラプラックス）は、いわさきちひろが描いたあそぶ子どもたちの絵とともに、「あそぶ」をテーマに参加型の作品を展示。絵のなかに入ってあそぶ映像作品や、絵を見るための遊具を通して、ちひろの世界を体感する。

作家からのメッセージ

ちひろさんが子どもを描くとき、卓越した観察者（あるいは母親）の目線で「あそび」の躍動感を捉えている、と同時に、自身のなかの子ども（特に少女のころの記憶）がいっしょになってあそんでいる。絵のなかでいっぱいに身体を使ってあそんでいる子どもたちと、それを描きながら頭のなかで自由にあそんでいるちひろさん、そして来館したみなさんが、一体となってあそべる空間。そんな展覧会を目一杯あそびながらつくってみたいと思っています。

profile

メディアアートユニット minim++（ミニムプラプラ）として活動していた近森基、久納鏡子と、インタラクティブメディアの研究者、筧康明を中心に 2004 年に設立。主にインタラクティブアート分野における作品制作を手がける一方、公共空間、商業スペースやイベント等での空間演出や展示造形、映像コンテンツ制作、インタラクティブシステム開発、プロダクトデザイン、大学や企業との共同での技術開発など幅広く活動を展開する。Ars Electronica（オーストリア）、SIGGRAPH（アメリカ）、ポンピドゥセンター（フランス）、文化庁メディア芸術祭（日本）など、国内外で数多く作品を発表。2008 年からはアニメーションデザイナーの小原藍が参加し、NHK E テレの「デザインあ」などの番組制作にも携わる。また、”Imaginature” をテーマにメディアアート的な視点、手法で心象自然をスケッチする活動など、さらにその領域を広げている。
http://www.plaplax.com/

■主催　ちひろ美術館、信濃毎日新聞社　　■特別協賛　株式会社ジャクエツ
■協力　遊具設計 A+Sa(株) アラキ + ササキアーキテクツ、音楽 高見澤淳子

各展覧会のご案内：2018 年順次開催

各展の詳細及び、アーティストトークなどのイベント情報は、いわさきちひろ生誕 100 年サイト https://100.chihiro.jp/ よりご覧下さい。

ちひろ美術館・東京	安曇野ちひろ美術館
「着るをたのしむ」 **spoken words project（ファッションブランド）** 会期：2018 年 5 月 19 日（土）～ 7 月 22 日（日） いわさきちひろは、おしゃれ心を大切にした女性だった。spoken words project（スポークンワーズプロジェクト）は、ちひろのセンスに着目し、その作品イメージから新たな作品としての生地や服をつくる。巧みな線や水彩の技術、強くしなやかな女性としての生き方――。いわさきちひろの世界観が、現代のファッションとして蘇る。	**「ひろしま」 石内都（写真家）** 会期：2018 年 5 月 12 日（土）～ 7 月 16 日（月・祝） 1945 年 8 月 6 日に原爆で被爆した人たちの遺品から肌身に直接触れたものを中心に選び、撮影し続けている石内都。一方、いわさきちひろは広島の原爆で被爆した子どもたちの作文に絵をつけた本『わたしがちいさかったときに』を手がけている。ふたりの女性芸術家がとらえた「ひろしま」を起点とした作品が共鳴する。
「あそぶ」 plaplax（アートユニット） 会期：2018 年 7 月 28 日（土）～ 10 月 28 日（日） 子どもはあそびながら、さまざまなことを体験し、体全体で世界を知覚していく。plaplax（プラプラックス）は、いわさきちひろが描いたあそぶ子どもたちの絵とともに、「あそぶ」をテーマに参加型の作品を展示。絵のなかに入ってあそぶ映像作品や、絵を見るための遊具を通して、ちひろの世界を体感する。	**「子どものへや」 トラフ建築設計事務所（建築家）** 会期：2018 年 7 月 21 日（土）～ 9 月 25 日（火） いわさきちひろは子どもの居場所をどう描いたか。トラフ建築設計事務所は、そのことを観察する過程で、ちひろが好んで描いたモチーフである「帽子」に着目。「帽子」を子どもが安心できる空間ととらえ、巨大化することで「子どものへや」をつくる。ここでワークショップなどを開催し、さまざまな体験ができる場とする。
「作家で、母で　つくる そだてる」 長島有里枝（アーティスト） 会期：2018 年 11 月 3 日（土・祝）～ 2019 年 1 月 31（木） 家族にまつわる記憶や関係性を手がかりに、自身のライフヒストリーや社会の陰に隠れてきた女性の創造性に光をあてる作品を制作してきた長島有里枝。その視点は画家であり母であったいわさきちひろの作品と響きあう。女性に課せられる規範と折り合いをつけながら表現を行うふたりの生き方が交差する。	**「みんないきてる」 谷川俊太郎（詩人）** 会期：2018 年 9 月 29 日（土）～ 12 月 16 日（日） 谷川俊太郎が、これまでに書いた膨大な詩には森羅万象が含まれ、無限の広がりが感じられる。一方で、いわさきちひろの絵には身近にある小さないのちの愛しさ、尊さがうたわれている。異なる個性をもつ谷川の詩とちひろの絵を組み合わせ、あらゆるものに息づくいのち、たえず変化していく宇宙に耳をかたむける。

INFORMATION

ちひろ美術館・東京

所在地　：東京都練馬区下石神井 4-7-2　tel.03-3995-0612
　　西武新宿線上井草駅より徒歩 7 分
開館時間：10：00 ～ 17：00（入館は閉館の 30 分前まで）
休館日　：月曜日（祝休日は開館、翌平日休館）
　　GW・8/10 - 20 は無休 展示替えのための休館・冬期休館あり
入館料　：大人 800 円、高校生以下無料

安曇野ちひろ美術館

所在地　：長野県北安曇郡松川村西原 3358-24　tel.0261-62-0772
　　JR 大糸線信濃松川駅より 2.5km　長野自動車道安曇野 I.C. より 30 分
開館時間：9：00 ～ 17：00（GW・お盆は 18：00 まで）
休館日　：第 2・4 水曜日（祝休日は開館、翌平日休館）
　　GW・8 月は無休 展示替えのための休館・冬期休館あり
入館料　：大人 800 円、高校生以下無料

■ Life 展パスポート　1000 円（税込）　※すべての「Life 展」に何度でも入館できます。
■ 関連書籍　『いわさきちひろ生誕 100 年 Life Chihiro Iwasaki 100』 1300 円（税抜）

ちひろ美術館（東京・安曇野）で開催される「Life 展」の他、生誕１００年を記念した展覧会が東京ステーションギャラリーでも開催されます。
詳細は、東京ステーションギャラリーまでお問い合わせ下さいますようお願いいたします。

生誕一〇〇年
いわさきちひろ、
絵描きです。

監修
高畑勲

2018年
7月14日 — 9月 9日

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY

生誕１００年

いわさきちひろ、絵描きです。

※タイトルは、ちひろが後の夫・松本善明との初対面での自己紹介したときの言葉です。

あふれる光とうるおう色彩、その中を泳ぐ花々と子どもたち――童画のイメージを決定づけ、今なお広く愛され続ける画家・絵本作家、いわさきちひろ（1918-74）。生誕 100 年を記念し、ちひろをあらためて「絵描き」として捉え返す回顧展を開催します。
ちひろはいかなる文化的座標に位置し、いかなる技術を凝らしたのか。新出の資料も交えて生涯を辿りながら作品を分析し、あらためてその魅力を探るとともに、童画家としてちひろイメージの刷新に挑みます。高畑勲氏監修による、ちひろの絵の中に踏み込む会場の空間演出も見どころです。

【会期】 2018 年 7 月 14 日（土）―9 月 9 日（日） 東京ステーションギャラリー
【主催】 東京ステーションギャラリー（公益財団法人東日本鉄道文化財団）、
ちひろ美術館、日本経済新聞社
【監修】 高畑勲
【巡回】 2018 年 11 月 16 日（金）―12 月 25 日（火）［予定］ 美術館「えき」KYOTO
2019 年 4 月 ―5 月 福岡［予定］

【本展に関するお問い合わせ先（広報）】
東京ステーションギャラリー 03-3212-2763（羽鳥・成相）